(別紙3)

宮城県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	イノシシ
技術名	イノシシ・ツキノワグマ同所生息地域における効果的なイノシシ捕獲方法の実証
実証地域	県北地域
実証時期	令和6年5月～令和7年3月
実施体制	民間事業者等へ委託
事業費	9,922千円

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

【目的】

特定計画に掲げる目標である、県内におけるイノシシによる農業被害の軽減及び生息数の減少。

【目標】

農業被害額：令和8年度末時点で6,600万円。
生息数：令和8年度末時点で16,500頭。

【実施状況】

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
3,194頭	2,749頭	2,046頭	3,924頭	3,226頭 (目標)

【効果】

年度	R2	R3	R4	R5	R6
推定個体数(頭)	32,485	26,366	23,173	23,078	21,468(見込)
農業被害額(万円)	10,492	9,550	7,920	6,316	7,485(速報)

【課題等】

宮城県では、イノシシの個体数の増加及び生息分布の拡大に伴い、イノシシとツキノワグマが同所的に生息するようになった県北部において、ツキノワグマが錯誤捕獲されるケースが増加している。

県では、ツキノワグマの個体群維持のため、年間の捕獲上限を定め管理しているため、ツキノワグマの錯誤捕獲を防止しつつも、イノシシを効率的に捕獲する技術等の確立が課題となっている

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低

減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 地域実証する技術の目的・目標・具体的な内容・効果等

【目的・目標】

イノシシ・ツキノワグマ同所生息地域における効果的なイノシシ捕獲方法の実証

【具体的な内容】

事業対象地域におけるイノシシ及びツキノワグマの痕跡調査等からイノシシの捕獲効率の高い地点の推定

複数の錯誤捕獲防止機能付きわな等の比較検証を通じた対象地域における効果的な捕獲方法の実証

【効果等】

捕獲等事業におけるイノシシの捕獲効率の上昇

【結果】

大崎市においてカメラトラップ調査及び痕跡調査を実施し、捕獲実証地を設定した後、錯誤捕獲防止機能付きわなを使用したイノシシの捕獲実証を行った。結果として錯誤捕獲はない結果となった。また、わなの誤動作等についても検証し、データを蓄積した。

注1：2を踏まえて、地域実証する目的や必要性、実証の場所や日程、方法、内容、想定される効果等を具体的に記載すること。

注2：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1～2について実施した内容・結果を具体的に記入すること。

4 技術の効果の検証・評価方法/結果

- ・事業成果については CPUE により評価。
- ・事業実施後の効果については技術導入後の CPUE 及び推定生息数等により評価。

【評価】

令和6年度の実証業務につき、年度内の CPU の改善等は見られなかったが、引き続き CPUE 等を確認しつつ、錯誤捕獲の減少に努め、効率改善を図る。

注：3を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する地域実証の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

- ・事業終了後、捕獲等事業へ技術導入（該当地域のみ）。
- ・ほか、市町村等へ事業成果を共有し普及を図る。

注1：地域実証する技術の活用・普及方法について記載するとともに、地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。